

圓光大師堂

圓光大師は、浄土宗の開祖 法然上人（1133-1212）が持つ8つの諡号（死後に与えられる名誉ある名前）のうちのひとつ目です。法然上人を記念して2009年に建てられたこの道場は、総ヒノキ（香りが良く明るい色の木材）造りで建てられた伝統的な建築の好例です。広さ40畳とやや小さめのこのお堂では、蓮の台座に座る法然上人の木像の前で、誰でも念仏を唱えることができます。

法然上人は1133年、現在の岡山県に生まれました。法然が9歳の時、父親が夜襲で傷を負って亡くなりました。仇討ちを求めるかわりに、法然は仏門に入りました。幾年にも及ぶ比叡山延暦寺での修行の後、法然は当時階級の高い人々のための宗教となっていた仏教のあり方に幻滅するようになり、仏教を通じて生きるもの全てに救いをもたらす方法を追求することに一身を捧げました。1175年、法然は念仏を唱えることによって悟りが開けるとする浄土宗を開きました。これにより、庶民の手の届くところに救済がもたらされました。既存の宗派からの抵抗や迫害にあったものの、法然の教えは大衆だけでなく、貴族の間にまで広く普及しました。法然は生涯を通じて布教活動を続け、1212年に亡くなるまで極楽往生を願って念仏を唱え続けました。法然上人は京都にある浄土宗の総本山、知恩院に埋葬されています。

圓光大師像の後ろにある祭壇には、五輪塔のような形をしたガラス製の経筒に納められた法然上人の御廟の砂が祀られています。